

スーダン観光

平成21年5月
在スーダン日本国大使館

ジャバルバラカル(聖なる山)とカリマ遺跡群

紀元前30世紀頃に興ったとされるクシュ王朝時代の遺跡です。当時の人々は、ジャバルバラカルにはアムン神が住んでいると信じており、同地は宗教的に重要な地でした。

この地域は多くの考古学者の興味を引き続け、1990年代には、多くの重要な壁画が発見され、2003年には世界遺産に登録されました。山の麓には、紀元前15世紀に建てられたアモン神の墓があります。この墓は後に代々のクシュ王朝支配者の墓となり、王国で最大の墓となりました。現在ではただの瓦礫と化していますが、台座の跡など、所々に昔の栄華の跡が見受けられます。

頂上まで登るのは20分～30分程度かかり大変ですが、降りる時は角度80度程度の絶壁の斜面を、粒子の細かいサハラ砂のおかげで誰でも簡単に2～3分で駆け下りることが出来、帰りは簡単かつ爽快です。頂上からは、360度付近の砂漠を見渡せます。付近のホテルは1軒のみですが、ロッジ風でオシャレ。

砂漠の中に聳え立つ巨大な一枚岩(岩石)。岩石頂上に突き出している出っ張りは、コブラ(蛇)が鎌首を擡げている様に見えることから、コブラ岩とも呼ばれている。



メロエ遺跡

クシュ王朝は後に南方のメロエに遷都しました。メロエ遺跡には、20以上のピラミッドが連なっています。ピラミッドには埋葬の部屋が設けられておらず、墓室はその下の岩盤に掘られており、傾斜のあるトンネルで外の小さな神殿とつながっています。壁には浅浮き彫りに王の生涯と神々が描かれています。

遺跡周辺は全て砂漠で、遺跡には幹線道路から2キロ程度砂漠の中を走るとたどり着きます。周辺にはテントタイプのホテルが1軒だけあります。砂漠の夕日に沈む遺跡は絶景です。

遺跡を回るのにはラクダに乗るのも良いでしょう。遺跡周辺にラクダ使いがいて、お金を払えば乗せてくれます。

メロエ遺跡を遠方から見た様子。



[渡航情報](#)